

第3回箕面駅周辺整備方針検討ワークショップ意見概要

2つのグループに分かれ、各施設の整備のあり方、整備内容について意見を出し合い、整備方針図（たたき台）に書き込み、整理した。2つのグループが発表した後、出席メンバー全員が、自分が思う「箕面らしさ」についてキーワードで発表した。

各施設の整備のあり方、内容について

桃・黄グループ

- ・この整備の捉え方として、やはりまずコンセプトが大事である。
- ・コンセプトなくして、それぞれの整備のあり方というのは、なかなか見えにくい。
- ・心地よさ、山並みを含めた開放感が駅前にあるのが望ましい。
- ・また来たいと思われるような駅前にする。
- ・まちの顔としてふさわしい駅舎、駅前広場にする。
- ・ソフトの視点も含めたプランを考えていくべきである。
- ・バスの便が少し不便なところがある。
- ・人の動線の再配置を検討していくべきである。
- ・バスのネットワーク等を含めて、他地域、他地区の駅・拠点の施設などとの結びつきを可能にする。
- ・駅前から見た見通し、景観を確保する。
- ・本通り商店街の入口エントランス部分から駅舎の方を見れば、背景に山並みが見える。こういった景観を大事にしていくような整備を考えていくべきである。
- ・観光情報の発信機能を拡充していくべきである。
- ・今の観光案内所をもっと機能的に使っていく。
- ・サインは、似たような機能のものがかたまっているように配置されていると、あまり意味がない。適正にサインを配置する。
- ・回遊性を高めるようなサインも必要である。
- ・アーケードも開放感があるものにする（材質も含めて）。
- ・駅前としての機能を的確に捉えていったうえで、整備する。
- ・駅前としては情報拠点としての役割や公共の窓口としての機能、商店街を含めた物販店舗といった商業機能、また託児所的な機能もこれからの駅としては必要である。その他文化学習機能、交流機能などの機能も必要だと思われる。

緑・青グループ

- ・今の小広場（ウェンディーズ前スペース）を改札に使用すれば、もっと面白いアイデアが出る。

- ・ 駅舎もサンプラザの2号館と一体化して、2階をつなげる。
- ・ 駐車場は、建て替えが必要。
- ・ 駐車場の前の水路の蓋、柵などを上手く活用する。
- ・ 広く見せる、いい景観づくりをする。
- ・ 具体的に何が出来るのか、また予算が具体的にはどれくらいなのかという条件も必要。
- ・ 住民が対象なのか、観光客を中心に考えるかによって、変わってくるのではないか。
- ・ 噴水を、例えばせせらぎや水路と一体的に見せる。
- ・ モニュメントや案内板の意味、価値を具体的に把握し、ある程度撤去するか、活用するか、また再整備で集約するかなどを考える。
- ・ 案内板はグレードアップする。

「箕面らしさ」についてのキーワード

- ・ 自然に囲まれた箕面の「滝」
- ・ 箕面に来る来訪者を大切に
- ・ 山、紅葉、滝
- ・ 「終着駅」の一種独特の雰囲気
- ・ 山と緑
- ・ 山、空、開放感
- ・ いろは紅葉のシンボルツリー
- ・ アクセスがいい場所
- ・ 観光
- ・ マイナスイオンが感じられるまち
- ・ 清涼感
- ・ 山が一番近い駅
- ・ 空気がきれい
- ・ 自然の優しい色の移り変わりを楽しめる、季節を感じられるまち
- ・ 自然
- ・ ソフト的には健康、人情などの田舎的要素
- ・ 行き詰まりのまち
- ・ 緑がきれいなまち
- ・ 関西の軽井沢
- ・ 西国街道と東海自然歩道の始点、出発点
- ・ 時間がゆっくりすっきり流れるまち
- ・ 良好な住環境

